

6月号 保護者と築く信頼関係

保護者と接するときには、子どもと一緒に支える協力者として関係を築くことが大切です。

1. 子どものできている部分を伝える（信頼の構築）

保護者が家庭以外での子どもの様子を知る機会に限られています。会場での子どもの成長や良い変化を具体的に伝えましょう。保護者が学習会に信頼を寄せていただければ、子どもも通いやすくなります。

2. 課題の伝え方（不快の防止）

子どもが親に会場でのできごとを話すときには、「誤解」や「一時的な感情」が含まれていることがあります。保護者に子どもの課題を伝えなくてはいけないときには、「客観的な事実」と「確認できたプロセス」を丁寧に話す必要があります。できれば複数のスタッフで話すようにしましょう。

3. 保護者を否定しない（伴走の姿勢）

子どもの課題を話すときには、保護者の育て方を責めているようなニュアンスにならないように細心の注意が必要です。保護者自身も不安や負担を抱えている場合がありますので、子どものために「一緒に考えていきましょう」という伝え方が大切です。

4. 家庭のプライバシーに踏み込まない（正しい距離感）

私たちは、家庭全体を支援する立場にはありません。家庭の事情を詮索したり、私生活に過度に介入しないように注意しましょう。もし家庭環境に根深い課題を感じられたら、指導員を通じて市に報告し専門機関や行政に繋げましょう。

スタッフが一人だけで解決しようとする、関係悪化や支援の偏りに繋がる場合があります。対応が難しいケースについては、一人で抱え込まずに指導員や他のスタッフとも連携することが大切です。